

(様式7)

公共事業継続箇所評価調書

評価確定日(平成26年11月05日)

事業コード	H26-農-継-03		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	農地地すべり対策事業		部局課室名	農林水産部 農地整備課
事業種別	地すべり対策		班 名	水利整備・防災班 (tel) 018-860-1831
路線名等	堪忍沢		担当課長名	倉部明彦
箇所名	鹿角市		担当者名	児玉将一
総合計画との関連	政策コード	01	政 策 名	県土の保全と防災力強化
	施策コード	01	施 策 名	健全な県土保全の推進
	指標コード	01	施策目標(指標)名	地震、治水、治山対策等による生命と財産を守る安全な地域づ

1. 事業の概要

事業期間	H21 ~ H27 (7年)		総事業費	3.5億円	国庫補助率	50
事業規模	防止工 1式(水抜ボーリング L=3,410m、アンカー工 N=239本、吹付法砕工 N=1式等)					
事業の立案に至る背景	<p>○平成20年4月中旬に鹿角市尾去沢の西山農免道路において道路法面法枠がはらみ出し、通行が危険なため同年6月13日に鹿角市が通行止めを行った。</p> <p>○同年9月に東北農政局資源課地質官と現地調査の結果、地すべり発生が確認されたことを受け、平成21年6月に地すべり等防止法による防止区域に指定された。</p> <p>○地すべり対策事業により調査・解析・設計を行い、地すべり防止施設を施行することにより、道路通行の安全を図り、農産物の輸送や地域交通の再開のため、平成21年度より事業着手した。</p>					
事業目的	<p>○地すべり被害の防止 (指定区域面積 A=25.50ha 面積の内訳: 水田A=0.45ha、畑A=2.35ha、樹園地A=2.13ha、山林A=12.34ha、その他A=8.23ha)</p> <p>(指定地域外被害想定面積 A=8.59ha 面積の内訳: 水田A=0.12ha、畑A=0.36ha、山林A=4.06ha、その他A=4.05ha) 農免農道 L=6,639mの通行再開</p>					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事業費		350,000	350,000	0	
	経費 内訳	工事費	257,400	247,400	-10,000	
		用補費	3,000	3,000	0	
		その他	89,600	99,600	10,000	
	財源 内訳	国庫補助	175,000	175,000	0	
		県 債	157,500	157,500	0	
		その他	0	0	0	
一般財源		17,500	17,500	0		
事業内容		水抜ボーリング工 アンカー工 吹付法砕工 付帯工	同左		精査による増減	
事業の進捗状況	○平成25年度までに水抜ボーリング工 L=1,525m、アンカー工 N=135本、吹付法砕工N=1式が完成し、地域は安定化が図られている。					
事業推進上の課題	○平成25年8月の豪雨により調査中ブロックの崩落があったが、平成25年度中に対策工を実施しており、特に問題はない。					
関連する計画等	<p>○第2期ふるさと秋田元気創造プラン</p> <p>○秋田県地域防災計画</p> <p>○第4次地震防災緊急事業五箇年計画(地すべり防止施設)</p>					
情勢の変化及び長期継続の理由	<p>○地区の工期については、地すべりの機構解析や地すべり防止工事の効果判定調査を実施しながらの対策であることから事業期間を要している。</p> <p>○調査・解析の結果により、平成27年度に概成する予定である。</p>					
事業効率把握の手法及び効果	指 標 名	地すべり危険箇所整備率				
	指 標 式	地すべり危険区域の概成地区数÷工事実施地区数				
	指標の種類	○ 成果指標 ● 業績指標	低減指標の有無		○ 有 ● 無	
	目標値・a	27 地区	データ等の出典		H25年度までの実績	
	実績値・b	23 地区				
達成率 b/a	85.2 %	把握の時期		平成26年3月		

前回評価結果等	● 選定または継続 ○ 改善 ○ 見直し ○ 保留または中止
	①指摘事項 なし
	②指摘事項への対応 なし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	○ふるさと秋田元気創造プランにおいて、重点的な戦略の一つとして掲げている。 ○地下水位の上昇に伴い、すべり面に不安定化が生じ、地すべりが発生した場合には、最大34.09haの耕地等への被害が想定されることから、「地すべり等防止法」の主旨に基づき、地域農業の維持、県土の保全、民生の安定を図るため、地すべり防止工は必要である。	5点
緊 急 性	○地すべりが発生した場合には、被害対象が農地にとどまらず、人命や道路などの公共施設にまで及ぶことから、緊急な対策が必要である。	20点
有 効 性	○対策済み箇所の調査観測結果から地下水低下が見られ安定しているため、効果を発言している。 ○被害対象施設である農道は、鹿角地域における農産物の物流を担う主要道路であるとともに、一般交通も多い生活道路となっており、対策工事による通行の確保は有効である。	30点
効 率 性	○事業に費用対効果は1.44であり効率性は高い。 被害想定額 (百万円) / 事業費 (百万円) = 506 / 350 = 1.44	8点
熟 度	○地域住民は営農の継続や日常生活の安全、安心の観点から本事業には理解を持っており、区域の安全が確保されることを望んでいる。 ○被害対象施設である農道は、農産物の物流を担う主要道路且つ一般交通も多い生活道路となっていることから、地域住民はこの道路の通行および安全の確保を望んでいる。	21点
判 定	ランク (● I ○ II ○ III) ○事業判定ランク I となっており、早期に事業完了に向けて継続すべきと考える。	84点
総 合 評 価	● 継続 ○ 改善して継続 ○ 見直し ○ 中止	
	○各観点の評価結果から、事業実施箇所としての優先度が高く、完了に向けて継続することが妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等 (対応方針)

対策工事の効果判定調査を適切に実施して、平成27年度の概成を目指し、コスト削減を図りながら事業を着実に推進する。
--

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 継続箇所評価
 適用基準名 地すべり対策事業

事業コード (H26-農-継-03)
 箇所名 (鹿角市)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要		
必要性	事業未実施の影響 中止・休止による農地・農業用施設への影響	地すべりの発生原因があり、与える影響が大きい	5	5			
		地すべりの発生原因があるが、与える影響は小さい	3				
		地すべりの発生原因があるが、与える影響はない	0				
		計	5				
緊急性	災害発生時の危険度 人命への影響	災害の発生により人命に危険がある	5	5			
		人命への危険はほとんどない	1				
	農地、農業用施設被害の除去	農地、施設への被害が甚大である	10	10			
		農地、施設への被害が懸念される 農地、施設への被害が懸念はほとんどない	5 1				
	地すべりの兆候	地すべり地形が明瞭で、早急な対応が必要である	5	5			
		地すべり地形が不明瞭だが、対応が必要である	3				
		地すべり地形が不明瞭だが、将来は対応が必要である	1				
計	20	20					
有効性	当初計画の具体的効果発現 地すべり防止効果の達成率 (地下水低下等)	100%以上	10	5			
		80%以上100%未満	5				
		80%未満	1				
	整備の効果 農用地、農業用施設の保全	農地、農業用施設への被害を防止又は軽減することが見込める 保全効果が多少期待できる 現状と変わらない	10 5 0	10			
		一般・公共施設の保全	一般・公共施設への被害を防止又は軽減することが見込める 保全効果が多少期待できる 現状と変わらない			5 3 0	5
			計			35	
	上位計画への貢献度 ふるさと秋田元気創造プランでの位置付	戦略を支える取組として貢献度が高い	10	10			
		戦略を支える取組に間接的に貢献する	5				
		戦略を支える取組への貢献度は低い事業である	1				
	効率性	事業の投資効果 費用対効果	B/C=1.0以上	5	5		
B/C=1.0未満			0				
事業実施コストの削減 対策内容		効果が発現している	5	3			
		実施している 検討中である	3 1				
計	10	8					
熟度	事業の推進 事業に関する住民意識	地区指定看板を設置し、事業内容を周知している	5	3			
		地区指定看板の設置はないが、事業内容を理解している	3				
		地区指定及び事業内容を知らない	0				
	前年度までの進捗比	計画より進捗している	10	5			
		おおむね計画どおり (90%以上) 計画より遅れている (90%未満)	5 1				
	今後の進捗見込み	課題は解決済みで順調な進捗が見込まれる	5	5			
		将来的な課題はあるが当面進捗に影響がない 課題は解決の見込みがなく、事業の停滞が予想される	3 0				
他官庁との協議調整	協議・調整済みで事業推進に影響はない	5	5				
	協議・調整中であるが事業推進に影響はない 協議・調整中で事業推進に影響する	3 0					
環境との調和への配慮状況 環境保全への配慮	十分に配慮している 配慮している 配慮が不十分である	5 3 0	3				
計	30	21					
合計			100	84			

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上～80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		